

庶民が目指した
聖地への旅

大山詣り

50th

古くから霊山として関東周辺の人々の信仰を集めた大山。
江戸の人口が100万人とされたころ年間20万人が訪れたといわれます。



大山詣りとは？

武運長久を願って刀を奉納した源頼朝にあやかり、鳶などの職人たちが願いを込めた巨大な木太刀を江戸から担いで運び、滝で身を清めて山頂を目指した「納め太刀」でも知られます。その様子は歌舞伎や浮世絵に描かれ、平成28年、日本遺産に認定されました。



五雲亭貞秀「大山良弁図」元治元(1864)年(伊勢原市教育委員会蔵)



身を清めた5つの滝の一つ、愛宕滝

団体旅行の元祖、大山講

旅行が制限されていた江戸時代でも信仰目的の旅は許され、庶民の間で流行していました。特に江戸の町から2〜3日で行ける大山は、気軽に参詣できることから行楽地としても大人気で、古典落語「大山詣り」にも取り上げられています。とはいえ当時は一人旅が難しく、人々は近所や仕事仲間で「講」という団体を作り、大勢で旅をして大山を目指しました。多くの講社が現存し、主に夏山の時期に参詣しています。

大山に通じる大山道

おやまみち

江戸時代、大山に至る道は「大山道」と呼ばれ、人々はその道を歩いて大山に向かいました。関東一円に及んでいた道は大山を中心に放射状に広がり、「全ての道は大山に通ず」といわれるほど発達していました。幹線道路には多くの道標が残され、中でも国道246号は主要な大山道として知られています。



参道には訪れた人々を歓迎する「布まねぎ」が掲げられている



参詣者のために立てられた大山灯籠。夏山の期間中は、今も市内6カ所に立てられている



各地から大山へと向かう道は10前後のルートがあった。上/大山道の道標 下/国道246号

古くから参詣者を迎えた宿坊

宿坊とは、一般的に寺社の宿泊施設のことで、元々は僧侶や参詣者が泊まるための施設でした。大山では御師と呼ばれる人たちが、訪れる講の人たちの安全を祈願し、宿泊の世話をしたのが始まりです。今でも大山参道に軒を連ね、昔の面影を伝えています。歴史的な建造物の中にそれぞれ神殿が設けられ、とうふなど地元の食材を生かした精進料理が楽しめるのも特長です。



参道に立ち並ぶ宿坊。大山詣りの歴史を今に伝える、風情あるたたずまいが見て取れる



宿坊に備えられた神殿。ここで登拝する講中の無事を祈願する



名物のとうふは、各地の講から納められた大豆と地元の清水で作られたのが始まりとされる

日本遺産のストーリーを
構成する主要要素

伊勢原市は「江戸庶民の信仰と行楽の地〜巨大な木太刀を担いで『大山詣り』〜」というストーリーで日本遺産に認定されました。右の一覧を含め21の構成文化財があります。

大山



標高1,252m。古くから山岳信仰の地として崇められてきた

大山寺



西暦755年、良弁僧正が開創。本尊鉄造不動明王は国の重要文化財

阿夫利神社
(現・大山阿夫利神社)

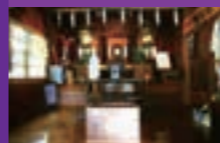
石尊大権現をまつる。大山寺とともに大山詣りの目的地の一つ

納め太刀



講中同士が競い合って奉納し、大きなものは7mもあった

宿坊



大山講中が宿泊した宿屋。阿夫利神社の分霊をまつる神殿がある

浮世絵
「大當大願成就有が瀧壺」

歌舞伎役者がふんずける粋な参詣者の滝垢離の姿を描く

霊山寺
(現・宝城坊、通称・日向薬師)

西暦716年、行基により開創。源頼朝や妻の北条政子も訪れた

石雲寺



西暦718年開創と伝わる。壬申の乱で敗れた大友皇子をまつる

比々多神社



延喜式神名帳に掲載されている神社。古墳に囲まれるように建つ

高部屋神社



延喜式神名帳に掲載され、鎌倉時代の武士、糟屋氏ゆかりの神社

参詣のまちを語る

歴史ある伊勢原の神社仏閣があゆんできた50年の変遷と未来について、日本遺産の構成文化財である社寺の皆さんにお話を伺いました。



日向薬師宝城坊住職

内藤 京介さん

昭和54年生まれ。平成15年、高野山での修行後、僧侶になる。本堂の「平成の大修理」を機に、先代である祖父の後を継いで住職となる。

大山阿夫利神社権禰宜

目黒 久仁彦さん

昭和61年生まれ。先導師目黒家長男。いせはらシティプロモーション公認サポーターとしても活動し、ドローン空撮による動画等で市の景観をPRしている。

三之宮比々多神社宮司

永井 武義さん

昭和41年生まれ。教育委員(教育長職務代理)、第5次総合計画審議会委員など市政にも長年携わり、現在は比々多観光振興会事務局長としても活動している。

この50年間で、当院の参拝客の様子にあまり大きな変化はないようですが、人数的には年々増加の傾向にあると思います。

そのように、たくさんの方が参拝に見えるので、寺院側で対応する人間の不在時間をなるべく減らすように心がけ、より多くの参拝客に対応できるよう努めています。

今後の当院が目指す姿としては、寺本来の宗教施設という面と、文化財の宝庫であるという芸術的な部分、加えて観光名所でもあるという部分をバランスよく兼ね備えた寺院でありたいと考えています。

市民の皆さんには、先人たちが大切に守り伝えてきた伝統や文化が、一つの文化遺産だという認識を持っていただければと思います。その思いを共有し、ご協力をいただきながら、伊勢原市全体で発展していければいいと思っています。

子どものころは大山講の参拝が今より多く、一般の参拝者も微減した時期がありました。日本遺産に認定後、歴史好きな人から観光目的の人、海外からの旅行者も含め、幅広い方が来山されるようになりました。

大山詣りは昔から人の絆や経済、地域、道さえもつなげてきた稀有な伝統文化です。この地域は多くの人々の想いが積み重なって今に至っています。今後も地域や伝統を通じて、さまざまな縁がつながるよう、先人の想いを引き継いで守り伝え、多くの人に「心のふるさと」と感じていただけるように日々努力を重ねたいと考えています。

さまざまな要因から新しい日常が求められる昨今、市民同士、市民と行政との連携がより必要とされています。この先の50年後を目指し、各々ができるか考え、伊勢原というふるさとをさらなる発展へとつなげられるよう、互いに協力していきたいと思っています。

伊勢原は厚木や秦野よりも寺院が多く、神社も秦野とほぼ同数で、その信仰の原点に大山の存在があるといえます。日向薬師や大山寺は勅願寺として、大山阿夫利神社や当社は延喜式の国幣社として国家鎮護を祈る公の場でした。戦後からの50年では個人の信仰が広がり、観光要素も増えています。歴史や伝統、文化財に加えて、周囲の自然や景観にも関心が高まっています。パワースポット、御朱印などの流行に加え、最近ではSNSの影響も見られます。一方で、感染症や災害などの折には個々の祈りも大切にされていることが実感できます。

歴史はヒストリー、物語はストーリーで語源は同じとされます。日本遺産は歴史や伝統をストーリーという形で捉えますが、それによって多様なものがつながり、魅力が広がります。その中でヒト・モノ・カネが循環する経済、社会が創生されれば幸いです。

伊勢原観光道灌まつり

53年のあゆみ

市の発展とともにあゆみ、市民の手で作られてきた一大イベント。その半世紀を振り返ります。

昭和43年・第1回



町村合併記念行事としてスタート

明治100年に当たる年に「観光まつり」として開始。道灌行列や自動車ショーを行いました。

昭和48年・第6回



国民的番組「笑点」の収録で大盛り上がり

桜台小学校で公開収録を実施。この回の視聴率40.5%は、現在も番組の最高記録です。

平成5年・第26回



芸能人が太田道灌公と北条政子役で初登場

道灌役は俳優の横内正さん、政子役は斉藤慶子さん。現在までに51人が登場しています。

平成25年・第46回



市公式イメージキャラクター クルリンがデビュー

クルリンを道灌まつりでお披露目。ステージでダンスをして会場を練り歩きました。

昭和46年・第4回



市制施行を記念し「伊勢原道灌まつり」に改称
翌年開催の第5回から、現在の名称である「伊勢原観光道灌まつり」となりました。

昭和57年・第15回



姉妹都市ラミラダ市から訪問団

前年に姉妹都市となった米・ラミラダ市の一行がパレードに参加。大歓迎されました。

平成13年・第34回



ソーレソレ! 第1回 ISEHARAソーレ大会

市民企画として開催。第40回からは商工まつりの一環としてパレードも行われています。

平成29年・第50回記念



まつりの歴史を紹介する記念展示

太田道灌の子孫が道灌公役に

俳優の北村有起哉さんは母方が道灌の子孫。政子役は妻で女優の高野志穂さんでした。